

西田昌司参議院議員の憲法シンポジウムにおける発言に対し、真摯な謝罪と撤回を求める抗議決議

2025年5月3日、那覇市内で開催されたシンポジウムにおいて講演を行った自民党の西田昌司参議院議員は、沖縄戦で犠牲となった女子生徒らを慰霊する「ひめゆりの塔」の展示説明に触れ「日本軍がどんどん入ってきて、ひめゆりの部隊が死ぬことになった。そしてアメリカ軍が入ってきて、沖縄は解放された。そういう文脈で書いてある。亡くなった方々は救われない。歴史を書き換えられるとこういうことになる」更には「沖縄の場合は、地上戦の解釈を含めて、かなりめちゃくちゃな教育のされ方をしている」と発言した。

これは著しい認識の欠如であり、熾烈極まる激戦下を生き延びた体験者の貴重な証言に基づく沖縄戦の実相、戦後沖縄の歩みなどの史実を歪曲するものである。西田氏の発言は、沖縄戦において尊い命を失った「ひめゆり学徒隊」をはじめとする戦争体験者や遺族の心を深く傷つけ愚弄するものであり、本市議会は断じて看過することはできず憤怒の念をもって抗議する。

西田氏は5月9日の記者会見で「ひめゆりの塔」に関する発言を巡り、「不適切だった。沖縄県民におわび申し上げ、訂正、謝罪する」としたが、「TPO(時・場所・場合)をもう少しわきまえるべきだった。配慮が足りなかった」と釈明。問題発言の根幹部分については謝罪も撤回もしていない。

浦添市史には、沖縄戦において住民の2人に1人が犠牲となり、4戸に1戸が一家全滅したと記述されており、その裏付けとして40年前に大学教授とゼミ生が全戸聞き取り調査を行っている。その実相が日米両軍の攻防から「ありったけの地獄をひとつにまとめた」と言わしめた前田高地(ハクソーリッジ)の戦跡からも伝承されている。

本市議会は5月27日、議員有志にて「ひめゆり平和祈念資料館」を訪問。館内を見学後、普天間朝佳館長より1時間に渡り講話を受けさせて頂いた。その内容は、今回の一連の発言に対し、「元ひめゆり学徒たちが血の滲むような思いで残してきた証言と沖縄の人々が沖縄戦体験者の膨大な証言や日米両軍史料の実証研究などをもとに積み上げてきた沖縄の平和教育を否定するものであり、踏みにじるものであると受け止めている。西田議員がこの機会に改めて体験者の証言に真摯に向き合い、沖縄戦の実相の学びを深めることを強く望む」と訴えていた。このことに本市議会も思いを一つにするものである。

さらに、5月29日の報道によると、西田氏は県議会の抗議決議の手交に立ち会わず、その後も一方的な主張を繰り返したことは、政治家の態度として許されるものではない。

よって、本市議会は沖縄戦の歴史的事実を尊重し、戦没者の名誉と県民の心を踏みにじるものがないよう、誠意ある対応を強く要求する。

記

- 1 西田昌司参議院議員による発言の撤回、沖縄県民および関係者への謝罪をすること
- 2 自民党は西田昌司参議院議員への厳格な処分を行い、党として沖縄戦への認識を示すこと
- 3 ひめゆりの塔や平和記念資料館の訪問を行い、沖縄戦の実相・史実を正しく認識すること
- 4 再び沖縄を戦場にさせないこと

以上、決議する。

令和7年(2025年)6月2日

沖縄県浦添市議会

宛先 西田昌司参議院議員、石破茂自由民主党総裁